

# 中央公論

11  
2015  
NOVEMBER

文字が  
大きくな  
りました



## 対談

中曾根康弘、安倍晋三、石破茂……

## なぜ政治家は坐禅を組むのか

平井正修  
臨済宗全生庵住職

## ひらいしょうしゅう

1967年東京都生まれ。90年学習院大学法学部卒業後、2001年まで静岡県三島市龍澤寺専門道場にて修行。02年より現職。著書に『囚われない練習』『力まない』などがある。

御厨 貴  
東京大学名誉教授

## みくりやたかし

1951年東京都生まれ。東京大学法学部卒業後、東京都立大学教授、政策研究大学院大学教授、東京大学教授などを経て現職。著書に『政策の総合と権力』『馬場恒吾の面目』『権力の館を歩く』などがある。

中曾根康弘氏が首相在任中に通い詰め、昨今では安倍晋三首相も訪れる東京・谷中の臨済宗「全生庵」に、政治研究者の御厨貴・東大名誉教授が訪れた。なぜ政治家は禅に魅了されるのか。平井正修住職と語り合う。

中曾根首相にとつては「ゴミ捨て場」

平井 この寺は、幕末三舟の一人で、江戸無血開城の立役者として知られる山岡鉄舟が、幕末、明治維新の際、命を落とした英靈たちの菩提を弔うために明治十六（一八八三）年に建立した寺です。

御厨 一般の方を対象にした坐禅会はいつ開いているのですか。

平井 每朝午前五時から七時まで本堂を開けていまして、どなたでもご自由にどうぞ——といった具合に開放しています。三〇分坐っていかれ

る方であれば、二時間ずっと坐っていかれる方もある。どなたがいらしているかも存じ上げませんが、毎朝、何人かが必ず本堂で坐っています。

御厨 そうした一般の方もいらっしゃる一方で、財界、政界の重鎮もいらっしゃる。以前は中曾根元首相が頻繁にお見えになつて、いまでは安倍首相も見える。報道によれば、石破茂氏などもいらっしゃる。

私は政治研究者ですから政治家がいつ、どこで意思決定を行うのかといつたことを突き詰める中で、政治家の生活空間、意思決定の場所など

「政治と建築」について考察したことがあります。その際、首相たちの別荘についても随分と調べたのですが、やはり政治家は都内のゴミゴミした居住などではなく、場を変えること、空間の移動が必要なのだと

中曾根康弘という政治家は、大変に山っ氣もあり、俗っ氣も強い政治家ですが、それがゆえにそういう場所を求めて全生庵にいらしたのではないかと。

平井 中曾根先生が首相に就任したのは一九八一年秋で、私は中学校三



政権の挫折というものが非常に大きくて、あそこから立ち上がるためにはこちらにいらしたのではないでしょうか。調べていると、第一次政権が頓挫した後、地方行脚をして、月に一度は全生庵で坐禅を組んでいる。そうした過程を通して、安倍氏はだ

**平井** 第一次政権は、ああした形で  
んだん政治家に戻つていつたのでは  
はないかと想像される。

**平井** 第一次政権は、ああした形になつてしまつて。安倍首相はご体調も悪く入院されました。退陣から七カ月後くらいだったでしようか。お父上の安倍晋太郎氏とも親交があつたという極めて近しい方がこちらにお連れになつたのが最初です。

全生庵にお連れになつた方は、安倍首相の命の危険を感じていらつしやつたのではないかと推察します。

たという極めて近しい方がこちらにお連れになつたのが最初です。全生庵にお連れになつた方は、安倍首相の命の危険を感じていらつしやつたのではないかと推察します。多分、生まれて初めての大きな挫折

多分、生まれて初めての大きな挫折だったことでしょう。日本中からバッシングを受けているような状態で、あそこから再び首相の座に就くなどということは、当初、ご本人も想像すらしなかったと思います。そこからはずっと地方行脚をされて、二〇一二年の総裁選に出馬を決められて、

なのかと驚きました。  
中曾根先生なども、風邪をひいて  
少しくらい調子が悪くても演説する  
と治るなどとおっしゃる。常人であ  
るなら人前でしやべつたら具合が悪  
くなりそうなものなのですが。やは  
り、政治家というものは、一種独特  
な感覚をお持ちなのだと。我々の  
ような感覚ではちょっとできない仕

党に返り咲いた。

平井 生まれて初めて本気で選挙を戦つたのではないでしようか。もしあの選挙で落選されていたら、政治家をお辞めになつていらしたのではないかと想像します。

総選挙の二ヵ月前くらいにも坐禅に見えていたのですが、選挙の前と後ではまるつきり別人なんですよ。通つてくる姿が。政治家にとつて選挙というものは、かくも大きなものななかと驚きました。

父によると、中曾根元首相は「ご住職には申し訳がないが、私にとつてはこの全生庵という場所はいわゆるゴミ捨て場だ」とおっしゃっていましたそうです。分割みでモノゴトをこなしているから、ともかくそれを一旦、頭の中から全部捨てて、クリアにすることと、月曜日からまた新しい気持ちで政務に取り組めるようになる——と。

御厨 首相ともなれば自分で意図しない限り、そうした時間も空間もありません。中曾根元首相が意識的にそうした時間を求めていたことが改

年生でした。首相就任から中曾根先生は週一回のペースで全生庵においてなりました。夜いらっしゃるものですから、当時住職だった父親から、「お前も来い」といわれて、よく中曾根先生と一緒に坐禅をさせら

平井 中曾根先生の旦  
めて分かるお話です。

平井 中曾根先生の場合は帝大の学生だった時分から坐禅をしていらっしゃるんです。「なぜ、先生はそんなに坐禅を熱心にされるのですか」と質問したことがあるのですが、やはり戦争があつて、明日死ぬかもしれないという日々を生きる中で、自分は何のために生まれてきたのか、戦争で死んでしまうのだとしたら——といったことを突き詰めていくと、坐らざるをえなくなつたといつたようなお答えをされたのが印象的でした。

方が一国の総理大臣なのだと子供ながらに思ったものです。坐つているだけでオーラがあるというか、そうしたものをお持ちの方でした。

第一次政権で躊躇  
寺を訪れた安倍首相

御厨 坐禅を組んだわけではないですが、佐藤栄作元首相も世田谷の自宅で写経をしていました。日記にも書いていますが、日課のように写経を続けています。

ときの総理大臣ですから、私邸といつても次から次へと陳情が来るわけです。ところが写経をしているときは一切、取り合わなかつたという。写経の時間帯だけは政治から自由になれるわけです。こうした時間を求めた政治家は少なくない。

安倍首相もやはり全生庵に来られそうですが、推測するに、第一次

## 第一次政権で躊躇 寺を訪れた安倍首相

方が一国の総理大臣なのだと子どものながらに思つたものです。坐つているだけでもオーラがあるというか、そうしたものをお持ちの方でした。

事だと思いました。

## 選挙といふ魔物

御厨 以来、今日まで、安倍首相は落ち込んだ様子を見せませんね。

平井 出ないと言われていた総裁選に、周囲を押し切って出た。お一人で決められたことなのだと思いますが、非常に勝負師であるなど。政策などは度外視して申し上げますが、政治家のひとつの大好きな資質であるということを思いました。同時に、選挙とは何なのかと考えさせられました。

御厨 実を申しあげれば、「選挙」というものは我々政治学者もよく分からぬ。なぜあそこまで政治家が選挙に燃えるのかと。面白いもので、たまに我々のような政治研究者やジャーナリストの中からも、何を間違ったのか選挙に出

る人がいるんです。そうすると、我々研究者やジャーナリストからは、あの人はあちら側に行ってしまったんだとみなされ、落選しようものなら「ほらみたことか」と、こういわれる。（笑）ところが、政治家と話をしていると、出馬した彼らのほうがよほど偉いというわけです。「何が偉いんですか」と驚いて聞くと、お前みたいに高みにいて政治家を揶揄するだけの人間と違って、選挙の苦しみを味わったから偉いと。そういう人間は、握手の仕方からして全然違うというんですね。

彼らにいわせれば握手というものは両手でやると。とくにお婆ちゃんが相手なら、自分の心臓に近付けて鼓動を聞かせ、「婆ちゃん、婆ちゃん」と二度、いって、それから自分の名前をいようと。もう宗教みたいな

ことになつてゐるわけで。平井 分かります。衆院選が中選挙群馬県にお住まいの方が、「俺は選挙は中曾根としか書いたことがねえんだ。いまさら他の名前が書けるか」という。こうなるともう宗教ですか。私がいうのもなんですが。（笑）御厨 彼の人生ではそれしかないわけです。

平井 ちなみに我々も仏教学者なる方々と交流がありますが、もつとも朝も遅くまで寝て、原稿書いているだけで。偉そうなことをいふなといふたくもなる。

車の両輪ですよね。そうはいって

も、論評から学ぶこともありますし、研究者の方もそうでしょう。お互にリスクペクトできる関係が重要だと考えています。

御厨 その通りです。

## 忍び寄る人口減 希望は歴女と墓ガール？

御厨 全生庵を維持・発展させるにあたって、何に留意されているんですか。

平井 まずは檀家さんを大事にするということです。檀家さんは私どもにお布施をくださっているわけではなく、お寺、御本尊様にお布施をされている。我々は寺の維持や生活のためにそこから幾許かのものをいただいていますが、主には仏教の教えを布教することなどを期待されています。この寺でいうなら坐禅です。坐禅を通して世の中に何らかの貢献を

しなければ存在意義はありません。そうでなければ、自分の生活のためだけにお布施をいただく、悪い意味での葬式坊主になってしまいます。

坐禅会はいつもたくさんの方がいらっしゃいますが、それで地域に定着できているかというと、これが難しい。東京といえども人口減は免れなればなりません。そう遠くない将来、今のような形で葬儀に多額のお布施をいただくといった運営の仕方は成立しなくなると思っています。やはり、何らかの会員制のような感じで年間を通していくらかのご負担をいただくような形になつてくるのではないでしょうか。

御厨 谷根千（谷中、根津、千駄木）のあたりを含めて、上野、本郷一帯文京区立第六中学校の卒業生です。中学校の校長先生が朝礼のたびに、湯島聖堂で行われている論語の勉強会にぜひ行くよう——と繰り返し、いつて。とうとう私は一度も行かなかつ

成長期などは、上野こそが東京の玄

関口であり、東京の雑踏はここに代表されました。ところが、今の学生

に当時の映像を見せても上野だと分からぬ。それくらい上野は寂れたんですね。

平井 上野駅を終着駅とする電車もほとんどなくなりました。

御厨 私は東京大学も立地するこの一帯を特区のようにして地域全体の活性化を図ればよいのではないかと考えています。東京五輪もありますし、その一環として文化政策を講じたらよいと。

ちなみに私は東大農学部前にある文京区立第六中学校の卒業生ですか。中学校の校長先生が朝礼のたびに、湯島聖堂で行われている論語の勉強会にぜひ行くよう——と繰り返し、いつて。とうとう私は一度も行かなかつ

た(笑)。今になつて後悔していますが、それはともかく、この地域にある文化資産を活かして、一体的に地域活性化につなげたほうがいいと申しあげたいのです。どうも、この地域のあらゆる文化資産はバラバラに存在しているだけにみえる。全生庵などはこうした地域興しの一角を担えると思います。

平井 難しいのは、概してお寺とい

うものは、本来、観光客に入ってきたほしくないわけです。極端なことを申し上げれば一銭にもなりませんし、境内を汚されますから。

御厨 いいことがないと。

平井 これが地域活性化にもうひとつお寺が協力的になれない理由だと思います。

御厨 それは京都とはまったく逆で

すね。京都のお寺さんは観光客に来てほしい。拝観料も取りますし、ラ

イトアップまでしていませんから。お寺同士の連携もある。

対して、東京下町では、お寺は点々として個別に存在しているようになります。全生庵は坐禅会などで地域に開いているお寺ですから、もうひと工夫で動きそうに思います。

平井 この界隈のお寺は、やはり檀家さんに支えられているので、外部の方にお見せできるものも少ないんです。うちの寺も何度も焼失して建て替えていましたから、古い建造物というわけでもありませんし。

御厨 寺だけでなく、この近辺は、路地が多いのも魅力的です。思わぬところに路地が現れ、誘われるままにそぞろ歩くと、また道が開けたり、民家の裏側に出て、布団が干してあつたりと、迷路のようで楽しい。

平井 そうそう。最近では歴女とか、墓ガールがお見えになります。

御厨 郊外型の大規模スーパーのイメージですね。

平井 そうなんです。それで地方は商店街がシャッター街になる。このあたりは車で買い物に行かれる場所がありません。だから商店街が残りもします。ただ困ったことに、よみせ通りをはじめ、このあたりの商店

御厨 墓ガール！（笑）

平井 この地域は商店街は健在ですね。私の家内は成田出身ですが、嫁に来た頃、「お買い物はどうしたらいいの」というわけですよ。ええ？奥さんの買い物というものは、夕方買って、魚屋さんと今日は何がうまいとか何とかやり取りして買つてくる。それが、買い物というものだろうと。いや、違うと。ポーント車で行つて、二、三日分をぱっと買うんだと。

平井 「この、田舎者っ！」（笑）

平井 そうなんです。それで地方は商店街がシャッター街になる。このあたりは車で買い物に行かれる場所がありません。だから商店街が残りもします。ただ困ったことに、よみせ通りをはじめ、このあたりの商店

街は観光地化していて、どこに行つてもメンチカツを売っている。（笑）御厨 ははは。この地域の「名物」とされますからね。

平井 このあたりは町会がまだまだ強くて、お祭りも多い。といつても、町会を含めて高齢化が進んでいます。やはりこれが一番、深刻ですね。

## 携帯電話が政治家を追い詰める

御厨 政治に話を戻します。

住職は著書にも書かれていましたが、現代の人達は寸暇を惜しんで携帯電話をいじりますね。携帯電話の普及が政治家に与える影響は計り切れません。彼らはその辺の若者同様に、携帯電話は常に出なければならぬと感じているようなんです。俺の電話に出なかつた——となると、相手の恨みを買うと、怯えているん

です。だから常に電源をオンにしていて、目の前の人と話している最中にも携帯に出る。「なぜ、今までして携帯に出るのか」と尋ねたら、「出なければ、絶対に後から文句を言われる」というんですね。

最近はさすがに国会では出でていけなくなりましたが、以前は本会議中でも対応しようとした政治家がいました。強迫観念になつていて。

一つには小選挙区制度になつたこともあるんだと思います。一つの選挙区から一人しか通りませんから、落選の危機がより増している。そん

なことをしていると、政治活動が無限に続き、区切りをつけることもできなくなる。先ほど別荘の話をしましたが、携帯は別荘にもかかってきますから。

平井 海外も関係ないですよね。

御厨 秘書官を入れると、また政治から離れられなくなりますからね。

中は、携帯は切るようにおっしゃるんですね。

平井 うちは持つて入れないことになっています。

御厨 こんなものに対応していたら坐禅を組んでいる意味がありません。余談ですが、安倍首相はメールの名手なんです。彼について辛口のことを書いた若い新聞記者なんぞに、今回の記事はよかつた——などと直接メールを送つたりするようです。そうするとその記者は、ころりと安倍首相のファンになっちゃう（笑）。なかなか人情味をお持ちです。

といつても安倍首相もここにいらしたときには携帯から離れるわけですね。

平井 ええ。坐禅を組む本堂には秘書官も入れません。

御厨 秘書官を入れると、また政治から離れられなくなりますからね。

**平井** 秘書官に「本堂に入られますか」と尋ねたら、「携帯電話は手放せません」とおっしゃるので、「それじゃあ、駄目です」と。

**御厨** 携帯の普及で何物にもとらわれない空間というものがますます少なくなっているんですよ。昔は政治家は必ず秘書を通したものでしたが、いまでは政治家本人に直接、電話がかかってきてしまう。

秘書を通して成立していたこと、うまくいっていたこともあるわけですが、直接、政治家本人に話がいくことで、政治家と秘書の関係も疎遠にする危険がある。「俺は聞いてない」となると、秘書ら周囲は面白くないから動きません。携帯が政治家をますます孤独にさせる。

## 元に戻れる力

**平井** こう申し上げると語弊もある

**平井** どんな仕事でも先人たちが試行錯誤を繰り返す中で作り上げた形には意味があるんです。それが合理的なんですね。最初は堅苦しく感じますけれど、自分のものとして体得できると、あれこれ失敗したときに、何があつてあるべきところに戻ってくることができると思つている。これがないと、いとも簡単に倒れてしまふ。肩書きなど外側の事象ばかりに目がいつていて、それがなくなったときには自分が何者だか分からなくなってしまうのだと思います。

人は動きます。動けば何かが目に入り、聞こえますから、おのずと雜念も浮かびます。であるなら、じっと坐つて、本当の自分といふのを確かめておく必要がある。確かめられれば、あとはどこに行こうが、何をしようが、どんなに落ち込もう

のですが、やはり、長く政治家として続けられる方と、心ならずも道を閉ざされてしまう方との間には、やはり微妙ながら「差」があるようになります。やはりふつと我に返れるような時間を自分自身で作れるという「能力」が、政治家にとって必要なのではないかと。そうした時間が、どんなことがあっても、自分を自分でコントロールできる力を作るといましようか。

**御厨** 興味深いですね。やはり、坐禅を組むことの意味もそこにありますね。著書の中で、かたちから入ることの大切さを説いていらっしゃって、これも興味深かったです。**平井** 坐禅では、姿勢を整え、呼吸を整え、そこから心を整えることをつなげていきます。はじめに姿勢がある。姿勢はかたちです。かたちを整えることが心を整えることにつながつてます。

が、有頂天にならうが、自分はこうだというところにずっと戻つてこられる。そのために、我々は坐禅を組むのだと思います。

**御厨** 政治家が始終、政治にさらされる時代です。どこに行って休むのかと。最近では、クッキングが趣味だという政治家もいて、料理をしているだけは自分に戻れるといふんですね。クッキングしかないのか。そこまで来たかと。

**平井** 何をやつても批判にさらされやすい時代ですかね。

**御厨** おそらく住職がいうような無くなる時間が必要ですね。

**平井** そう思います。二十四時間張りつめている必要はありません。大事なところだけ間違えなければいいのですから。昨今では支持率調査も頻繁に行われて、これまで政治家を追いかけていますね。ご指摘のよう

に政治家は、自分をコントロールする力が必要だと思います。

**御厨** それが政治家にとって坐禅が重要な理由なのでしょう。

かつて議員会館は今よりオープンな感じで、議員の部屋も個性的なしつらえだったのですが、新館になってから個性がなくなり、静寂そのものですね。これがまた政治家を孤独にして、視野を狭めていく。

孤独な時間が必要だという今日の話からは離れます。政治家の政治家は、ワイガヤの世界になり、その一方で、ワイガヤの世界も遠くなる。知らないんですね。携帯のせいでも秘書らとの関係が希薄になり、その一方で、政治家は、実に中途半端に一人生きている。これは悲劇です。

坐禅で政治を救いましょう！

がつてくる。

**御厨** あらゆる日本文化で形が重んじられます。私は学生時代に茶道部にいたんです。年に一回、三四郎池ほとりの藤棚の下で茶会を開くのですが、茶道はまさに形が重要です。

東大茶道部は運動部にも似て厳しい。夏合宿もある。一日中、茶をたてては休み、たてては休み。胃の中は緑色になる(笑)。たまらないのは足。ずっと正坐しているので筋肉痛になるわけで、みんなしてトクホンダッシュを噴きかけて頑張る。合宿場にお借りしていたお寺の中がトクホンダッシュの変な臭いでいっぱいになつて、茶の匂いなんてしない(笑)。それで、「何やつているんだ」と住職に叱られたりしました。トクホンダッシュはともかく、やはりそこで学んだ形は今でもずっと自分のものになっている。